

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 8 月 1 1 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471700264		
法人名	府中ツキ板有限会社		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	広島県府中市中須町1412番地の1 (電話)0847-47-1006		
自己評価作成日	平成25年4月25日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3471700264&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成25年8月6日

【事業所が特に力を入れている点, アピールしたい点(事業所記入)】

介護保険制度の基本理念 利用者本位 高齢者の自立支援 利用者による選択(自己決定)を念頭に入れ、安心、安全のもと日々支援しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームひまわりは「地域の中で安心して暮らせる」というグループホームの理想が開設以来進展されつつ、地域の方々に馴染まれながら受け入れられているホームです。府中市内で認知症介護施設として最初に開設され、模索部分も持ちながら代表者、管理者、職員の努力が下記の実績につながっています。 記[・運営推進会議に地域住民代表が積極的に参加、・地域との災害時協力体制の話し合い・地域のお祭り、文化祭へ参加要請を受けカラオケ、利用者の作品の展示・地域子供パトロールに協力参加・町内の溝掃除参加・公民館のいきいきサロンへ利用者が参加される等] 今後利用者の高齢化も進み、家族より看取り介護の要望等もあり高齢者介護の情報提供を地域に発信されつつ、管理者、職員共に協調の和で利用者の日々のケアに努められています。
--

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入所者に対して常に「礼儀正しく」「言葉遣い」「笑顔」「信頼感」に配慮し、地域の中でその人らしく暮らしていただける援助。	「礼儀正しく」「言葉遣い」「笑顔」「信頼感」と記された小型のポスターと地域密着型認知症施設としての理念を軸にし、加えて施設経営の法人理念を混載された10項目の方針が玄関に掲示されている。職員の支援の様子は優しい笑顔で進められているが、確かな言葉としての共有がされていない状況が覗かれた。	今後の取り組みとして、施設全体の理念を軸にミーティング等でユニット毎にも年間の目標を作られて職員間で唱和共有されサービスの向上に努められることが期待されます。
2	2	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の要請があれば積極的に参加、地域のボランティアの受け入れも随時行っている。	町内会に加入し、年間の町内会常時計画書や町内会役員名簿等も配布を受け、施設としてお祭りや文化祭への参加計画が立てられている。町内会の要請で職員が通学路のバトロールや溝掃除にも参加し喜ばれている。施設でカラオケを日常楽しませている利用者が、町内会のお祭りのカラオケ大会に出られ、活力を得られている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	他の地域のサービス担当者会議に積極的に参加している。1回/月		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者や家族、地域住民、関係機関等、要望、助言等を聞く機会実施し、サービスに活かしている。	運営推進会議は地域包括センター、町内会長、老人会長、民生委員、利用者家族3～4名、施設職員5名、施設代表等の参加で開催され、運営現在状況や行事予定等の説明を行い、出席の方々の意見、要望を頂き事後の運営に活かされている。	運営推進会議の参加者に市社会福祉協議会や消防署、派出所等よりの参加を要請され防災や防犯その他の社会的資源の活用が期待されます。
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	月1回は必ず要望、助言等を聞く機会を設け、積極的に研修参加している。	毎月1回(第3水曜日)市介護保険課の主催する会に出席し、情報交換を行い、知り得た情報を支援に取り入れることもある。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	転倒、転落等の危険の予測が出現した時、例えば、ベッドから畳へと変更し、対応している。	南北2ユニット間のドアは解放され行き来を自由にされる利用者もあるが、玄関はその日の利用者の精神的安定の状況で判断して施錠することもある。訪問当日は施錠されていた。身体拘束をしないケアについては職員間で確認が来ている。病院より拘束が必要とされて受け入れた利用者を拘束せず見守りで安定され現在に至っている。	身体拘束をしないケアについての施設内研修を1年に1度は実施されることが望まれる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関する新聞、テレビ等の報道を教訓にホーム内で研修を重ね、虐待防止に努める。		

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	率先して研修の場に参加し、出来る限り、活用する様支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時、一言一句契約書を読み、納得が行く様、家族に十分説明し、同意を得る。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置し、相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員を明確に掲示している。	カンファレンス時や、支払いに来所された時には必ず要望をお訊ねするように努めている。また来所されない方には順次電話で声掛けをして施設に親近感を持っていただき遠慮のない意見を頂くよう努めている。入居者は近隣の方が殆どで、家族の訪問回数が多くホーム長だけでなく職員全員家族との会話が親しくできている。	今回の外部評価、家族アンケートの結果についても、近日にミーティングで検討される予定にされている。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回は必ずミーティングの機会を確保、課題があれば随時、機会を設ける。	職員は部屋毎の担当制はあるが、コミュニケーションは良好で利用者についての細部にわたる情報を共有して支援に当たられている。各職員から寄せられる意見や要望については、実行を試みて全員で検討されサービスの向上に向けられている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	有給休暇取得のための措置(正月休み、盆休み等)、資格取得、能力向上のための措置(研修受講料、旅費負担)、ミーティングにより職場内コミュニケーションの円滑化及び健康診断の実施、又、安心・安全対策としてスプリンクラーを設置し、努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・ホーム内の研修 1回/月 ・地区介護支援専門員連絡協議会 1日/月 ・研修の情報を確保し、育成を進める。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	交流の機会を持ち、相互訪問等の活動は行っている。		

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>まずは相談を聴く機会を提供し、本人が困っていること、不安、求めていること等を受けとめる努力、支援を行っている。</p>			
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>まずは相談を聴く機会を提供し、介護保険の概要を伝え、家族が困っていること、不安、求めていること等を受けとめる支援をしている。</p>			
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談しやすい雰囲気を作り、必要としている支援及び他のサービス利用も助言している。</p>			
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>その方の生活歴は支援する上で大切な事、重要事項として本人の目線で支えあっている。</p>			
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>意志・希望等、本人が伝えられない部分は助言し、家族の方と一緒に支援している。</p>			
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>面会、電話等、気楽に交流できるよう支援している。</p>	<p>入居者の殆どが府中市内の方で、可能な限り訪問を受け入れている。訪問された一人の方の友人が以前から入居されていた利用者の知人である等、馴染みの方の輪が出来て喜ばれている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>入居者同士の馴染みの関係を大切に演芸等の観覧、意図的に関わり合いを提供している。</p>			
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>他の施設等にも変わっても情報等は収集し、要請あれば対応し、可能な限り支援する。</p>			

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	可能な限り、個人との触れ合いを通して、希望、意向を把握している。	担当者に任せることなく全員で触れ合い、会話を多くして希望や要望を把握するように努めて、職員間でその方の支援方法を共有して行っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	情報提供して頂き、ケース記録に記載し、把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝のミーティング 伝達事項 ケース記録 等で把握している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングでカンファレンスを開き、現状の把握、課題、問題点、ケアのあり方等検討している。	ミーティングの後カンファレンスを行って職員全員より利用者に関する現状把握や意見を収集し、本人、家族、計画担当者で検討を重ねて現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録には、緊急連絡先、介護記録、健康チェック表、看護記録、処方録、伝達事項、ケアプランを一緒に綴っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	要望に応じて情報を共有し合い、柔軟な支援をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	月1回の定例ケア会議等で接点があり、必要性に応じて協働している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	当ホームでは嘱託医を確保しているが、希望でかかりつけ医を依頼される家族もあられ、適切な医療を受けられる支援をしている。	入居された利用者は施設の嘱託医をかかりつけ医とされ、北ユニットは細谷医師、南ユニットは河村医師がかかりつけ医と定められ2週間に1回の間隔で往診がされている。歯科については4週間に1回の定期検診が行われ、緊急時には随時往診がされている。	

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	現時点では看護職は非常勤であるが、時間帯を工夫しながら日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、家族、職員と情報交換、話し合い、協力を医療機関と出来ている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化は避けられないので、早い段階から本人、家族、医療との話し合いで同意を得て方針を共有している。	高齢化、重度化は避けられない現状があるが、「医師が常駐でないこと」「看護師が24時間常勤でないこと」等の現状説明をし、入居時に看取りの方針を十分説明の上、同意書を交わしている。現入居者の家族より看取りの意向が寄せられ、施設として対応が予測されている。前回2ユニットに1人体制であった夜勤を1ユニットに1人に増員され、重度化に備えられている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	「緊急時対応マニュアル」を目の届く所に掲示し、事故発生に備えている又、ミーティング等で勉強会を開いている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	管轄消防機関で年2回防災訓練施行。地域の面では防災(避難)台帳を作っており、町内会、社会福祉協議会、医療機関の協力のもと対策を講じている。	消防署の指導の下に年2回(内1回は夜勤体制での消防避難訓練の実施)の防災訓練を行っている。23年度の運営推進会議で町内会との防災協力体制の話し合いが行われ地域の協力体制を得ている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーの確保の徹底は出来ている。	利用者お一人お一人に優しく声掛けがされ、利用者の穏やかな表情の受け答えの光景が見受けられた。個人情報の関係書類は管理者室の保管庫に確実に保管されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	買物や外出など希望のある時は優先的に取り組み、納得しながら暮らせる様に支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人、一人一人のペースを大切に希望にそって支援している。		

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者が自分の好みに合わせた服装を選ぶ援助又希望する入居者にはホームの職員が散髪している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	誕生日祝膳、手作りケーキ、ちらし寿司等工夫し共に準備、片付けをしている。	日常の食事は高齢者向け宅配業者より調理されて、各ユニットのキッチンでは配膳のみをして提供されている。入居者の高齢化で認識レベルの低下があり、感染症の危険性が予測される為キッチンへの出入りをしてもらっていない。下膳は積極的にされる方が3～4人おられる。おやつ作りは利用者皆さんを交え楽しませている	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	嚥下困難の人は、トロミ食やトロミを付けた飲み物を提供し、可能な限り献立や調理を工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後1日3回の歯磨き、入れ歯の手入れ、うがい等の習慣は定着している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	昼夜を通して、定時と随時を併用し、声かけ、トイレ誘導を行っている。	健康チェック表で排泄時間、量などが管理され、排泄パターンの把握となり定期的な声掛け、トイレ誘導を行っている。布パンツを目標としているが、現状では全員紙パンツ使用になっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・食物 繊維の多く含んだ物 ファイバー飲料 ・便秘薬 生活の中で体を動かすリハビリと併用する。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週で入浴日を決めているが、外出等臨機応変に支援している。	1週間に2回の入浴を基準とされ、必要に応じて回数を増やすこともある。夏の季節は希望に応じてシャワー浴のみで済ませる方もある。高齢化で一人の利用者に職員2名で入浴介助するケースが増えてきた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個人個人の状況に応じて、休息、安眠の環境を支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ケース記録に個別処方録を綴っており、症状の変化、確認は充分出来ている。		

グループホームひまわり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	教職に就いていた人は、レクリエーションのリーダーに起用する等生活歴を活かした支援		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買物に同行してもらったり、可能な限り家族と外出、予想外の外出等の支援。又、普段行けない場所への外出支援、実施している。	1年に2回全員で近郊の温泉等に日帰り旅行を実施している。高齢化により体力、気力のレベル低下により、外出希望をされる方が少なくなっているが、日常の会話などで希望を聞き1対1での買い物外出や誕生日のサプライズ外食同行等を試みて喜ばれている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買物時、ある程度お金を管理できる人は自分で支払う様支援する。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要求があれば要求どおりに支援し、こちらからも奨励している。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	障害物無く自由に物品搬送し、入所者も安心して移動できる。	職員と共に1日の大半を過ごされるリビングは職員と一緒に製作された季節感のある装飾絵画が掲示され、賑わいの雰囲気づくりがされている。優しく童話絵本を読まれている職員を3人の利用者が囲み、ゆったりと聞き入っておられる和んだ情景が見受けられた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの外に、畳の間とホールにソファ（長椅子）を設置し、居場所の工夫をしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族が気軽に訪問、宿泊でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	個室毎に温度計を置いて温度管理を定期的に行っている。個室で使用されているベッドと衣類タンスは施設の備品であるが仏壇と共に入居されている方、使い慣れた椅子や飾り台等を持ち込まれて自分に合った部屋作りをされている方、空気清浄器等種々の電化製品を持ち込んでその使用を楽しんでいる方等が見受けられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	残存機能を維持し、過剰介護はしない。貼り絵作り等を通して、一人ひとりのわかる力を活かし、助け合い、支え合いながら支援している。		

グループホームひまわり

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

グループホームひまわり

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が 家族等の3分の2くらいが 家族等の3分の1くらいが ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひまわり

作成日 平成 25 年 7 月 10 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	60	高齢による体力レベルの低下	運動機能レベルアップ	外出支援の回数、頻度を増す	6ヶ月
2	1	利用者、家族などの意見や要望を気軽に頂けるように取り組む	意見や要望に対し迅速に対応する	アンケートを実施することで運営に反映させる	12ヶ月
3	19	よりよいサービス提供を心がけスタッフ全員が向上心を持ち学習する	ケア技術のレベルアップを図る	施設内、外の参加を増し、勉強会をすることで知識や意識の共有	12ヶ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。